

十二講詣り

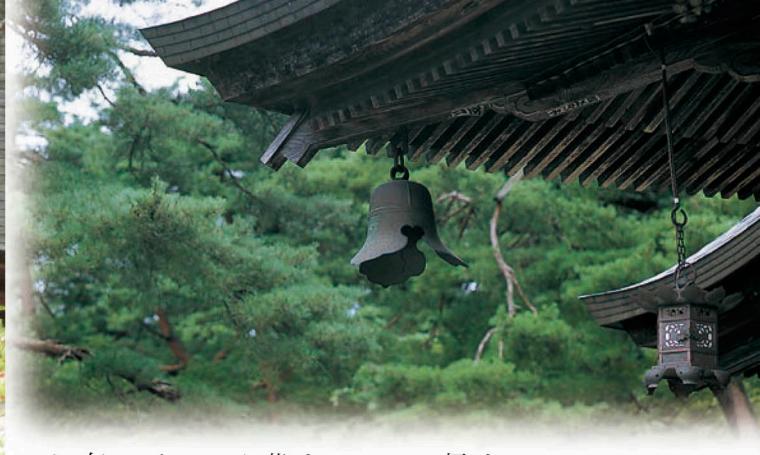
福満虚空藏菩薩圓藏寺では
小学校六年生でお詣りをします。

十三講詣りとは古来より、数え年十三歳に成長した男女が、成人の儀礼として虚空藏菩薩圓藏寺へ参拝しておりました。十三歳の厄難を払い、知恵を授けていただけるように祈願いたします。

明治末期までは会津一円で広く行われていた行事で、十三歳になつた子どもは新調した衣装を着て親と共に陰曆三月十三日(現在の四月十三日)の虚空藏菩薩の縁日にまいり、名物の「あわまんじゅう」を食べ、魚淵のうぐいを見て帰るのが習わしでした。

大正時代には小学校六年生の遠足は柳津と決められ、学生全員で十三講詣りをしたものでした。

こうした風習は現在にも受け継がれており、数え年十三才になると今も柳津へ昔と同じように正装でお参りをする姿を数多く見られます。



新島八重と 虚空藏菩薩

新島八重の遺品の中に、二十二枚の絵葉書があり、そのうちの二枚に圓藏寺の絵葉書がありました。裏面には八重の直筆で「こうぞう」と書かれており、はるばる会津の城下からこそ柳津の虚空藏菩薩へ詣で、信仰していた貴重な写真であり、八重ゆかりの地であることを裏付けるものです。

六年生以外の十三講詣り
ご祈祷は受け付けており
ません



開運撫牛



弘法大師が広めた虚空藏菩薩信仰は、その靈験あらたかな事を持つて庶民に広がりました。一代守り本尊としては丑、寅の年に生まれた人々の守り本尊で縁日が十三講詣りの庶民信仰が普及したものといわれています。

その
由来



赤べこ発祥の伝説

その後の一六

赤毛の牛の群れはなぜ

か虚空藏堂の完成を待た

一七年に初めて

虚空藏堂(本堂)

は現在の巖上に建てられ

ています。本堂再建に使われ

た木材は、只見川上流の

村々からの寄進を受け、只

見川を利用して運ばれま

したが、ここから巖上に運

ぶのに大変困り果ててい

たところ、仏のお導きか、

どこからともなく力強そ

うな赤毛の牛の群れが現

れ、大材運搬に苦労してい

た黒毛の牛を助け、見事虚

空藏堂を建てることがで

きたのです。

今から四〇〇年ほど前の
一六一年に会津地方
を襲つた大地震でここ柳
津も大被害を受け虚空藏
菩薩をはじめ僧舎民家が
倒壊し多くの死者がでま
した。

は現在の巖上に建てられ
ています。本堂再建に使われ
た木材は、只見川上流の
村々からの寄進を受け、只
見川を利用して運ばれま
したが、ここから巖上に運
ぶのに大変困り果ててい
たところ、仏のお導きか、
どこからともなく力強そ
うな赤毛の牛の群れが現
れ、大材運搬に苦労してい
た黒毛の牛を助け、見事虚
空藏堂を建てることがで
きたのです。

これが当地柳津が「赤
べこ発祥の地」と言われ
る由縁です。